



関高進路さくら便り



新年、心新たにそれぞれの目標に向かって頑張ろう

2023年がスタートしました。ウサギ年です。ぜひピョンピョン飛躍の年になるよう、目標に向かって努力する年にしてほしいと思います。努力した分だけチャンスは広がります。自分の可能性に挑戦する年であってほしいと思います。



さくら塾『食品ロス講座』



12月23日(金)に名古屋学芸大学の安達内美子教授をお招きして食品ロスに関する講義を行っていただきました。講義に先立ち、関高探究活動で食品ロスに取り組んでいる4チームによるショートプレゼンが行われました。

■ ほらどキウイ班

ほらどキウイの「焼き肉のたれ」は現在大学1年生の先輩たちが始めた活動です。家庭科お肉を焼いて、先生方に試食してもらって研究を進めました。その活動が脈々と後輩に受け継がれ、地域を巻き込んで大きな事業になっているなんて、すごいですね。焼き肉のたれ「ほらタレ」だけでなく「ほらドレ」も廃棄処分されるキウイを利用した商品です。JAや本町の学びカフェでも購入できます。



■ まるそらドーナツ

「円空さん」を訓読みしたら「まるそら」、地元食材のまん丸い里いも「円空芋」を使ったドーナツです。廃棄処分される里芋をJAから買い取り、ドーナツを作ります。味もキウイや上之保の柚マーマレードなど地元こだわっています。加茂農林高校は円空芋を使って「フライド円空」を販売しています。コラボのお誘いがあるそうで、高校生の交流の輪が広がっています。



■ ジビエ

関高生徒と中華料理屋さんと郡上市が捕獲した鹿肉や猪肉を有効活用しようと取り組んでいます。毎年60万頭を捕獲しますが、うち肉として利用されるのは10万トンのみでほとんどが廃棄されています。命を無駄にしたくない、おいしい肉を提供したいと考え、ジビエのアレンジレシピを考案しています。3月には商品販売が決定しました。



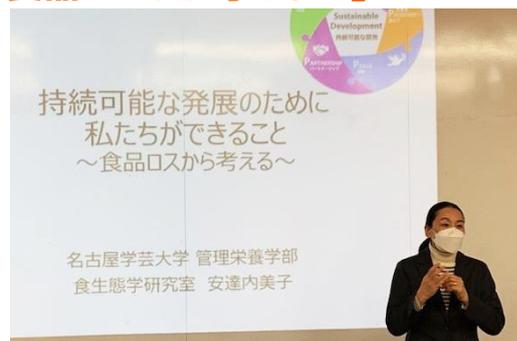
■ 模擬国連

関高生がファシリテーターになって、中学生模擬国連を開催しています。テーマは中学生に合わせて「国連カフェのメニューを考案する」です。中学生が各国の大使になって、自国産業振興や多様性を考慮したドリンクやフードメニューを考えます。中学生に世界規模の問題を考えてもらうきっかけにもなっています。自国の産物を売り込めばいいという単純なことではなく、いろんな問題が背景にあります。例えばアフリカや中南米ではコーヒーが採れます。しかしそのコーヒーはきちんと生産されたのでしょうか。搾取的労働条件のもと安い賃金で重労働させられたり、子供が学校にも行けず労働に駆り出されている児童労働の問題もあります。生産者の利益が薄く、欧米の大企業のみが潤っている、そんな状況下で生産されたコーヒーをメニューに入れることは正しいことなのか…難しい問題なのです！

『持続可能な発展のために私たちができること～食品ロスから考える～』

世界中で生産される食糧の3分の1が捨てられています。途上国の9人に1人が低栄養(飢餓)であり、一方約8億人が過栄養(肥満)です。食料への不平等なアクセス問題が起きています。栄養不良は「過剰」と「不足」の2極化が起きています。日本でも、日本人女性のやせに対して中年男性のメタボ、高齢者の低栄養が起きています。妊婦で痩せていると赤ちゃんが飢餓状態となり低体重児が生まれます。過栄養にさらされると栄養を容易に取り

り込むため糖尿病や肥満になる恐れがあります。途上国では、家庭内でも食料への不平等なアクセスが起きます。男性が太っていて残り物しか食べれない女性や子供がやせていたり、農村ではやせ、都会では肥満が多い。貧しい人は砂糖や油をたくさん使った安い食品しか口にできないので、スラム街では痩せが多い。近年、適切な食事の量を摂取することは健康と環境保護の面から重要になっています。日本食はユネスコ無形文化財



に登録され注目されています。栄養素のバランスの良い食事、おいしさ、共食、旬の食べ物が日本人の長寿を支えています。健康な食事とは、地域力の向上、QOLの向上につながります。日本は食品の60%を輸入に依存しているため、世界情勢によって影響を受けやすいので、地元の物を食べて自給率を上げる努力が必要です。「エシカル（倫理的）消費行動」とは人、社会、環境に配慮した消費行動のことです。値段や性能だけをみて商品を選ぶのではなく、消費者それぞれが社会課題の解決のために考慮し、そうした課題解決に取り組む企業を応援する形で行う消費がエシカル消費とされています。地産地消もエシカル消費です。地元で採れた野菜や肉、海産物などを積極的に購入することで輸送のためのエネルギーを減らすことができ、地元の生産者の収入を増やしたり地域活性化にもつながります。東日本大震災の被災地の商品を買うことや、有機農産物、フェアトレード商品購入もエシカル消費です。SDGsは開発と環境の両立、格差の是正がすべての人に適応されることを目指しています。



さくら塾に参加された関市役所の方から、「漏れバケツ理論」を教えてくださいました。地域というバケツにいくらお金を投入しても、利益が地域外に出てしまえば、バケツには何もたまりません。我々が購入する電気は中部電力が海外よりエネルギーを輸入して生産しています。地域でエネルギーを作って太陽発電の装置を作り、雇用を増やすなど地域で経済を循環させれば、地域活性化につながります。それもSDGsのヒントになるね。



2年生★駿台予備校難関大入試対策講座(冬季)開催



冬休み初日の12月26日(月)に「旧帝大」と言われる難関大学を志望している2年生が、駿台予備校講師の先生による、名大入試レベルの数学・英語の講義を受講しました。

《数学》数学では「数列」について授業をしていただきました。学校での授業では「数列の一般項を求める」ということを主題として取り組みましたが、今回は難関大学で出題されるような数列問題に対する心構えを学びました。生徒の皆さんにとって衝撃的であったのは「数列の問題で種々の証明をしなければならないとき、一般項を必ずしも求める必要はない」ということではないでしょうか。度々、右のような図が登場し、「漸化式から数学的帰納法を用いて証明する」という具体例に触れました。この講座を通して「数列」という単元をより俯瞰的な視点から読み解ききっかけを得たことでしょうか。今回の授業を経て、「今までやったことのないパターン^①の漸化式の問題だったから難しかったけれど体験できてよかった」「数列の問題も、それにかめ^②めた整数の問題もできるようにになりたい」など、前向きな感想を寄せてくれました。これを1つの機会として、1年後に控えた入試に向けて飛躍していくことを期待しています。



《英語》英語は、「名詞構文」を意識しての読解と英作文に取り組みました。名大の問題、訳せますか？“Foreign language institutions can serve as a fundamental shaper of the child's perception of the world.” (, , `・ω・´)ソソ？名詞を動詞に置き換えることで、意味が取りやすくなります。“Foreign language institutions can serve as something to shape fundamentally how the child perceives the world.”なるほどねー。英作文も同じように、出された日本語をそのまま英作するとちんぷんかんぷんですが、名詞を動詞に変えるなど、説明しやすい日本語に変換してから英作することがコツですね。



名大レベルなんて無理かな~と思ったかもしれませんが、まず目標を高く持つことが大事です。1, 2年生の皆さん、今、模試の結果でA判定B判定がついているなら、ぜひもう一つ上のランクの大学を目指してください。高い目標に向かって頑張ることが進路実現につながります。受験生にとって、「安心」こそが最大の敵です。ライバルたちは黙々と努力を続けています。今判定がいいから大丈夫なんて思ったら、足をすくわれます。1月の模試の志望校は「ワンランク上」も書いてみて下さい。そこからあなたの可能性が広がるのです。2年生はいよいよ「3年ゼロ学期」が始まりました。3年生の皆さんは週末の共通テストに向けて最後の追い上げをしている最中です。ちょうど1年後が2年生の皆さんが共通テスト本番を迎えるのです。1年生の皆さん、中だるみの2年生にならないよう今一度気を引き締めましょう。関高校の入学試験に頑張っていた1年前を思い出してください。3年生の皆さん、「絶対に合格するんだ」という強い気持ちを持ち続け、3月の後期試験までやり抜いて下さい。耐久力のある人、あきらめない人、高い目標を持ち続けられる人が、最後の最後「底力」を発揮し、合格をつかんでいきます。



3年生、君の底力を見せてくれ！
健闘を祈る。

